

有識者会議 会議録（議事要旨）

会議の名称	第5回かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成28年2月26日（金） 16時00分～17時00分
開催場所	勤労青少年ホーム 集会室A・B
出席委員	<ul style="list-style-type: none"> ・川島 宏一 委員 ・加藤 哲己 委員 ・川村 成二 委員 ・中島 祥元 委員 ・上原 健太 委員 ・兵藤 昭彦 委員 ・藤崎 和則 委員 ・古橋 智樹 委員 ・真藤 実男 委員 ・元井 隆 委員 ・渡辺 一洋 委員 <p style="text-align: right;">（計11人）</p>
欠席委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚 洋一郎 委員 ・狩野 良和 委員 ・佐々 松音 委員 ・瀧川 康恵 委員 ・戸田 廣 委員 ・櫻井 理恵 委員 ・佐野 治 委員 ・西川 壮太郎 委員 ・古本 顕光 委員 <p style="text-align: right;">（計9人）</p>
事務局等	<ul style="list-style-type: none"> ・坪井 透（市長・かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部長） ・横瀬 典生（副市長・かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進副本部長） ・木村義雄（市長公室長） ・貝塚裕行（市長公室 地方創生担当） ・横田 茂（市長公室 政策経営課） ・猪俣直宏（市長公室 政策経営課）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 報告 <ul style="list-style-type: none"> （1）人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、公表について （2）地方創生加速化交付金について （3）アクションプラン（案）について （4）自由討論 4 その他 5 閉会

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開会

2 あいさつ

【坪井市長】

本日は、第5回目のかすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議に大変ご多用の中ご出席賜り、誠にありがとうございます。皆さまにはこれまで貴重なご意見を賜っていただきましたが、昨年6月の第1回から数えて今回で5回目となりますが、かすみがうら市総合戦略の策定につきまして、専門的な立場から貴重なご意見、ご指導等をいただき、おかげさまで昨年12月に策定として公表することができました。改めて御礼申し上げます。

本日は皆様のお手元にございます冊子として、ご報告させていただきます。また、地方創生加速化交付金の活用事業等を説明させていただきたいと思っております。さらに、現在取りまとめ調整しておりますアクションプランにつきまして、ご説明させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。既に実行段階に入っておりますけれども、これら事業につきましては、行政だけでなく、市民の皆さま、地域の皆さま、そして委員の皆さまのご指導いただきながら、しっかりと実行に移していきたいと思っておりますので、皆さまには引き続きご指導ご支援を賜りますことを、そして今日は有識者会議としては最後の会議になりますが、よろしくお願い申し上げます。ましてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

3 報告

（1）人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、公表について

【川島座長】

意見公募の結果についてはどのような状況か。

【事務局】

意見公募については12月に実施し、結果として意見はなかった。市民アイデアの提案をいただいた方が、公募期間終了後に意見を提出したいとあったが、受け付けはできない旨、話をした経過がある。その方は今後も何か市の施策に対し、協力していきたいとのことであった。

（2）地方創生加速化交付金について

【川島座長】

事業費は、連携団体全体としてのものか。

【事務局】

市の事業費である。全体としては、サイクリングプロジェクトが4億5736万4千円、第二のふるさと・いばらきプロジェクト推進事業は3億9790万6千円、ジオパーク事業が4千万円となっている。

【中島委員】

サイクリングプログラムについて、具体的な内容を知りたい。また、ハード的にはこの場所にサイクルステーションのようなプログラムをしていない時に行っても、サイクリングができるような設備が整備されるのか。

【事務局】

サイクリングプログラムについては、現在、最終段階で構築を進めている段階だが、基本的には年間を通してどなたが来ても自転車を借りる、もしくは自分の自転車を使って対応できるようなプログラムにする予定である。

また、果樹が盛んな時期には果樹の千代田地区を回るコース、また本市には胎安神社や子安神社など安産に関連した有名な神社もあり、神社で子宝に恵まれよう、豊作に恵まれようというお祭りがあるので、神社と関連した妊活的な子宝を貰いたいという方に対応したコース、プログラムなどを考えている。

このプログラムに関しては、JTB との委託として行っているが、首都圏からの若い女性を対象としたワークショップをした際に、首都圏在住の若い女性のほとんどの方がヨガをしているとのことなので、本市には富士見塚古墳という整備された古墳の公園があるので、そういうところを回りながら青空の下でヨガをやる、という女性向けのプログラムなども考えている。

こういったプログラムについては、ワークショップの際に様々な案が出た中から最終的にその3つを詰めていくこととなった。また、市内を回るコースをどうするか、また、途中で果樹狩りやお茶を飲んだり、自転車で休憩できるようなどここに立ち寄れるポイント等を検討している。現在、四万騎農園で東屋を建築しており、サイクリングの方が寄れるようなポイントにはなれるというご返答を頂いたので、このようなことを含め、現在様々なコースを作っていく予定である。

電車で来るという方、家族連れの方は車で来られると想定して、基本的には神立駅、歩崎公園をスタートとする2つをポイントとしている。また、基本的な拠点は歩崎公園とし、先程説明があったように観光 DMO ということで、そこでレストラン、バーベキュー、様々なフルーツを使ったピザを作る体験など、連携をしながら取り組んでいこうと考えている。

【中島委員】

イベントのように募集して行うものと、そこに行ったらいつでも楽しめるようなプログラムを作るということか。また、一年で何人くらいの集客を想定しているか。

【事務局】

常設型の部分及び妊活のようなイベント的なプログラムと両方の形で実施する。

一年目は約 1,500~1,600 人位を想定している。

【中島委員】

予算は交付金が来年度以降生じなくなっても、この1年で自立できるような仕組みを作るということか。

【事務局】

1年目に交付金を活用し、交流センターに必要な、例えばレストラン運営に必要な備品など

を整備し、3年目には法人が自走して進めていける想定をしている。また、六次産業化と個別の事業の中で、その他の事業もあればそういったものも取り込みながら、運営をしていく予定である。

(3) アクションプラン（案）について

【藤崎委員】

先ほどの中島氏の質問に関連して質問させていただく。現在、湖岸ロードとサイクリングロード、それからつくばりんりんロードの結節点、具体的には京成マリーナの跡地だが、ここに土浦市が「湖の駅」を作る計画があるのはご存知か。

同じようなサイクリングステーションが出来るということで、土浦市とはどう差別化を図っていくのか。

【事務局】

細かいことは把握していない。加速化交付金の申請にあたっては、土浦市も一緒に本市と同じ計画に入っており、土浦市も事業費が大きいことから、今後詳細な内容を伺おうと思っていたが、京成マリーナを活用する事業だということは初めて聞いた。

基本的には土浦市、かすみがうら市、行方市、石岡市も水郷筑波のサイクリングロードの協議会として既に連携しているので、土浦市の湖の駅、そして20キロ先の本市の歩崎、そこはそれぞれの拠点として距離感は良いと考える。

【藤崎委員】

レストランマルシェは本当にいい案だと思うが、併せて、サイクリングの拠点である以上、自転車としての拠点であってほしい。

最後に川島座長にシティプロモーションについて、お伺いしたい。私に関わった所として、龍ヶ崎市ではすでにシティセールス課というものを作って、これからシティプロモーションをしていく、また、土浦市の場合は4月から大手広告代理店と組んでプロモーションを図っていくということをやっている。同じような質問にはなってしまうが、結局自治体間の中でシティプロモーションにおいてどうやって差別化を図っていくべきなのか。

【川島座長】

大きく分けて2つあり、1つは地域固有の資源が何かということである。同じようなものを競争してしまえば、結局どんどん疲弊してしまうので、かすみがうら市ならではの、他に負けないものは何かというのを、地域の固有性を突き詰めるということが第一だと思う。

2つめは方法的なものである。どうしても情報の発信力が、都会に対して負けてしまう面がある。より積極的に固有の資源の情報を発信し、発信するだけではなく、多くの方々が交流できる携帯やインターネットを使用し、相手の関心を巻き込んで、コミュニケーションの仕方を現代のインターネット時代に合わせた発信にすることが大切である。

どの自治体も後者の方は取り組もうとしているが、一番大切なのはかすみがうら市でないと体験できないこと、かすみがうら市にしかない文化遺産、そういったものの価値をわかりやす

くストーリー化することである。例えば、単発ではそこまで魅力のないことも、先ほど話していたように安産の神社がある等、いくつかまとめてパッケージにすることで大きな意味が見いだせることに関しては発信をする。また発信するときにはターゲットを絞り発信する。ターゲティングをして反応するような内容を個別に出すことができるような工夫をする。

さらに、総合力は大切である。エンデューロというイベントがあるのでそれをきっかけで来る方々に対して、例えば様々なフルーツや栗等を提供する、あるいはそこに宿泊したいという方がいるのであれば歩崎に作られる様々な施設と連携させるといった総合力をいかに発揮できるかということについて、行政や民間と協力して全体プロデュースということが重要だと私は思う。

【真藤委員】

サイクリングロードについて商工会でも話をしてしたが、以前ドラゴンボートレースを行い、盛況で全国から集まってきたが、結局廃止になってしまったようだ。このようなかつて盛況であったイベントを組み込むということは考えているのか。

また、P32の廃校を使った企業誘致については、どこに相談に行けばよいか。

【事務局】

現在はカヌー教室を行い、かすみがうらの水辺を楽しむといったことは行っているが、今の時点ではサイクリングを核とした取組みを行うため、まずそこに集中し、ある程度集客が見込まれ、状況が許せばかつてのイベントを再び取り組むことも検討する価値はあると考える。

企業誘致は、地方創生が担当している。施設管理は、検査管財課だが、企業誘致ですと、政策経営課も関連しているため、ぜひこちらにお話いただければ学校によっては土地利用について都市計画法等、様々な規制も入っていることから、様々な相談を受けながら、話を伺ってきたい。

【古橋委員】

霞ヶ浦の湖岸において、実質サイクリングに適した場所というのはどの市が一番所有しているのか。かすみがうら市が適しているという理由から、本市がベースとなりエンデューロといった大会を行っているので、自信をもって取り組んで欲しい。

アクションプランについて、すでに評価しているものもあると思うが、評価体制はどのような方法で行うのか。

【事務局】

平成28年度以降は、有識者会議のような場で実施した結果・効果を報告し、ご意見を頂きながら、その頂いた意見を今度内部で更に担当部署と調整をしながら検証をし、事業の見直しを行っていく形での体制を考えている。

【古橋委員】

実質的には内部検証ということか。

【事務局】

有識者は外部となる。

【古橋委員】

有識者というのはどのような構成を想定しているのか。

【事務局】

委員の皆さんについては、3月まで策定の業務をお願いしているが、4月以降の有識者会議においては、見直しということで、効果検証という項目を入れ、産官学金労言と多方面の方をお願いをして、効果検証に対して意見を頂戴したいと考えている。

【古橋委員】

坪井市長と川島座長が言った、「今後もお付き合いをお願いしたい」というのはそういうことか。

自分も行政に少し携わっており、内部監査だと馴れ合いが生じてしまう恐れもあるため、評価にもお付き合いいただき、多様な観点から評価いただきたいと思う。

【事務局】

そういうことも含めての発言となる。まだメンバー構成は決まってはいるが、そのような場で効果検証するということは考えてはいる。

【川島座長】

百点満点は狙わず、状況は変わっていくものだと思うので、新しい動きに対応できるようにリラックスした形で行って欲しいと思う。

【加藤委員】

市内に事業所はあるものの、市内に住んでいる従業員は少なく、会社としては市内に事業所があるので従業員には市内に住んでもらい、借り上げも含め全員住んでもらい通勤してもらいと、コストも少なく市にとっても潤えるが、残念ながら、今の若い人には借り上げ社宅はどうしても受け入れられなかった。

しかし、勤務する人は数十人単位で増えていくため、ぜひ空き家プロジェクトなど今後魅力のあるものがあれば他の市には流れることはなくなると思うので、ぜひ、引き続き情報提供等をお願いしたい。

【上原委員】

かすみがうら市だけで、飲食店が64店舗あり、取材させていただいて2月中には10店舗ほどページが出来上がる予定である。ページを作ったから終わりというわけではなく、今後はそれをどう活かすのかという点について、市の方々にご協力頂きたいと思う。

資料1のp3にレストラン事業というのがあるが、かすみがうら市の資源に一点集中したメニュー等があっていいのではと思っている。レンコン、フルーツ、ワカサギ等、様々あるため、市として押していくものを一つに決めても面白いと思う。

また、ぜひ生産者を表に出してあげて欲しい。例えば生産者の顔が見えてどのような方が作っているということを開示するだけでも、食の安心安全は担保でき、消費者の方も思い等は通じる部分があるのではないかと思う。もしくは、生産者の中で観光農園をされている方がいたら、この時期は観光農園や体験農園ができるというようなことが発信出来る。今、モノ消費か

らコト消費に重点が置かれる中で、体験や食ということに消費が増えると言われていることから、茨城空港を活かした方法も視野に入れつつ、レストラン事業を展開していただきたい。

【川島座長】

このような関心を持った方が市役所に協力に行くとしたら、どこの部署へ行ったらいいのか。

【事務局】

現在も上原さんと協議をしているところである。茨城空港において、台湾便の発着が始まり、台湾の方がサイクリングに興味があるということで、このような観点からも何かしら考えていきたいと思う。

【兵藤委員】

アクションプランの p17 でリピーターの確保について、パスポートのようなものを作っていくということに対して、現在はこのままでいいと思うがこの先を考えると外部からきた方が、来てよかったな、また来たいなと思っていただけるようなサービス商品アクセスを考えて欲しい。来てもらうためのアクションはあるが、満足してもらうというアクションがあまりないように思われ、「パスポートがあるからもう一度来よう」ではなく、「楽しかったからまた来よう」というふうに思ってもらえるようにして欲しい。

(4) 意見討論

4 その他

5 閉会